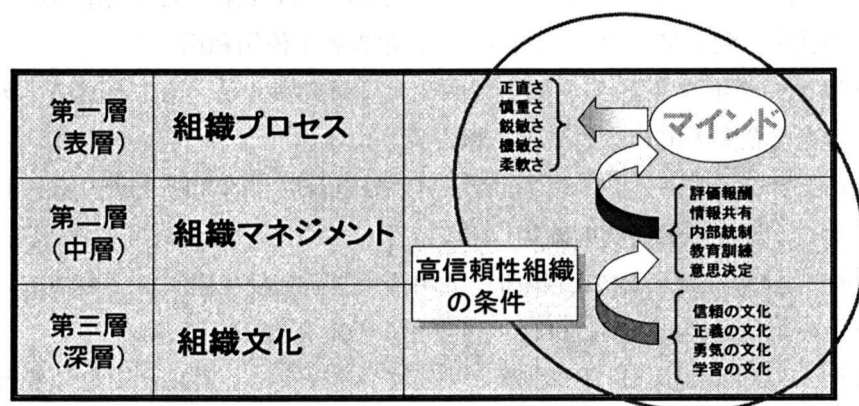


## 知恵創出型組織とその人的資源管理および諸制度に関する研究

研究代表者 中 西 晶

2007 年度は最終年度として、2005 年度、2006 年度の調査から得られたデータおよび知見をもとに危機管理能力の高い「高信頼性組織」のモデル化に向けてのインテンシヴな調査を行った。これについては、2007 年 1 月にまとめた著書『高信頼性組織の条件』（生産性出版）をもとに、「組織プロセス」「組織マネジメント」「組織文化」の 3 層構造からなるモデル案を提示した。このモデルについては学会や企業講演等において提示し、妥当性の検証を行った。また、5 月には「高信頼性組織」に関する国際カンファレンス（フランス・ドーヴィル）に参加し、高信頼性組織に関する研究・実践の最新情報を得るとともに、高信頼性組織の構築が特に安全、安心が重要な組織にとって不可欠の要件であり、本研究の方向性が世界的な傾向と一致していることを確認した。

すなわち、高信頼性組織概念は、多様な知恵創出型組織のひとつのモデルとなる可能性が期待できる。



これらの調査研究の成果をもとに、学会発表・講演を行うとともに、モデル案に基づくチェックリストや診断の開発、研修の企画などにも展開している。一例として、2008年2月のIPAおよびJPCERT/CC共催の重要インフラセキュリティフォーラムにおける講演(テーマ「重要インフラに求められる高信頼性組織の条件」としてWEBに公開([http://www.jpCERT.or.jp/present/2008/20080220MEIJI-Nakanishi\\_sama.pdf](http://www.jpCERT.or.jp/present/2008/20080220MEIJI-Nakanishi_sama.pdf)))がある。また、チェックリストについては第2層「組織マネジメント」に関する項目を中心に、ISMS導入企業10社をはじめ、重要インフラ関連企業にてデータを採取した。これらについては、さらにサンプル数を増やし、精度を高めたものにしていく必要がある。本研究の研究期間は本年度で終了であるが、今後、こうした企業現場との交流を行いながら、さらに研究を進展させていくことを予定している。